

もう 50 年近く前のことであるが、中学校の文化祭で、プロの演じる落語を聞いた。たまたまアンケートで感想を読んだが、その中で落語の下げ(落ち)について「そのことを言いたいために長々とやるのは意味がない。」という指摘があった。小学生の頃からの落語好きの私は、この回答に驚いた。「落語は下げに至るまでのプロセスを楽しむもの」だと私は認識していたが、その人は「一発芸」だと思っていたのであろう。

社会人になった際、上司への報告について 2 つのことを助言された。結論から言うこと、そして悪いことから言うことを徹底された。ゴタゴタ言うと、「結論は何だ！」と怒られたものである。その意味では一発芸である。その風潮は、昨今のタイパ/コスバ重視に通じると感じる。AI を活用として早々に結論を導くことは、タイパ/コスバの改善に有効なことは間違いない。

しかしながら、タイパ/コスバを過度に重視してプロセスをおろそかにすることで失うものが少なからずあると思う。長年の歴史を経て様々な世界にルールや慣習が生まれた。これらは、時代の変化とともに、廃止を含め大幅に見直されるべきであるが、その反面で、そのルールや慣習が生まれて継続されたのには、経緯、理由がある。それを学ばずして、安易に「やめてしまえ」という風潮には、15 分で演じる落語を一発芸にしてしまうような無謀な強引さを感じる。

今号はまた新たな取り組みをした。これまで、為替セミナーは「誌上再録」の形式で臨場感のある内容をお届けしていたが、今回は AI を活用した要約バージョンでお届けしている。これは、「従来のやり方は古いからやめてしまえ」と短絡的に決めたものではなく、編集委員会できちんと議論をした結果によるものである。

私なりに、要点の理解では翻訳版、読み物としての楽しさは従来版との印象を持った。これについては、完全の余地は十分ある。読者の皆様のご意見を頂戴し、今後の誌面作りの参考にさせていただきたい。